**【 記入例 】**

令和４年度農事功績表彰候補者推薦事由調書　都道府県名**：　○○県**

部　門　名**：　複　合**

(1)　表彰農家氏名等

 **氏　 名**：　**日本　太郎（にほん　たろう）**　 　　　　　 　　　生年月日：昭和28年 ３月１日

　住　 所：〒012-5678 ◯◯郡◯◯村 字◯◯ ◯◯番地 　　　　　年　　齢：69 歳

　電話番号： 012-567-1234 　　　　　　　　　　(令和４年４月１日現在)

　FAX番号：　012-567-1333　　　　　　　　　　　　　 農業経験年数：　48年

 E-mail : nihon\_taro@dainihon-noukai.jp 　　最終学歴：　◯◯農業高等学校

 (2)　調書作成者等

|  |  |
| --- | --- |
| 本調書作成者 | 所属職名：○○農業技術普及指導センター○○班長  |
| 　 | 氏　　名：◯◯ ◯◯ |  |
| 　　　　　　 | 電話番号：012-345-6789　　　 | ＦＡＸ番号：012-345-6790 |
|  　  | E-mail：dainihon@ceres.ocn.ne.jp |
|  　  | 所 在 地：〒012-3456 ○○県◯◯郡◯◯町◯◯番地 |
| 上記の担当責任者※ | 職　　名：○○農業技術普及指導センター所長 |
| 　　　　 | 氏　　名：◯◯ ◯◯ |  |
| 　　　　　 | 電話番号：012-345-6781 | ＦＡＸ番号：012-345-6790 |
|  |
| 都道府県庁担当部課係名：◯◯県◯◯部◯◯課◯◯係 |
|  | 担当職名・氏名：○○○○係長　　○○○○ |
|  | 電話番号：012-456-7890 | ＦＡＸ番号：012-456-7891 |
|  | E-mail：dainihon@ceres.ocn.ne.jp |
|  | 所 在 地：〒012-4567 ◯◯市◯◯町◯◯丁目◯◯番地 |

(3)　経営の特徴**：**切花キク作・稲作複合経営、切花キク作は法人経営

(4)　農業経営の形態

　　○　家族経営 　稲作経営

 ○　法人経営　 　切花キク・鉢物花き作経営　　有限会社「日本○○○○」

(5)　家族等の概況

1. 家族経営　家族総数 ６人　　、　経営者　２人(うち男 １人、女　１人)、

農業従事者 ３人　(うち男 １人、女 ２人)

　　　雇用労働力 　延べ　50 人日／年　(うち通年雇用　０人：男 　人、女 　人)

　　　後継者 ：　現在就農中 ・ 将来後を継ぐ（現在：在宅市役所従事　） ・ いない

1. 法人経営 構成戸数　　３戸　　、　経営者　３人(うち男 ３人、女　 人)、

農業従事者　６人(うち男　３ 人、女 ３人)

　　　　年間雇用労働力 　延べ　 600人日／年　(うち通年雇用　２人：男 １人、女 １人)

　**(６)　表彰候補者の経営規模等**

ア　経営面積 　　　 　　　　　　　 　　 　　　　　 イ　作付面積

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **地目等区分** | **面積等数量** | **作 物 名** | **作 付 面 積** |
| 水　田 | 　　　　　3.5ha(うち借地 　1 ha)  | 水稲 | 2.5ha |
| 普通畑 | 0.2ha(うち借地 　 0 ha) | 野菜(自家用) | 0.2ha |
| 牧草地 | 0.1ha(うち借地 　0 ha) | 混播牧草 | 0.2ha |
| 山　林 | ５ha(うち借地 　０ ha) | 　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　  | 　 |
| 　 | 　 | 　 | 　 |
| 施　設 | 鉄骨ハウス(3棟) | 1,000㎡ | 鉄骨ハウス・切花○○ | 20a |
| 　  | ビニ－ルハウス( 4棟)  | 800㎡ | ビニールハウス・鉢花△△ | 16a |
| 　　　　　 | 雨除けハウス( 2棟) 　 | 300㎡ | 雨除けハウス・切り花○○ | 15a |
| 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 作業受託面積 | 水稲収穫・調製 | 6ha | 大豆収穫 | ５ha |

ウ　家畜飼養頭羽数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 肉用牛(繁殖) | 2頭  | 肉用牛(肥育) | 2頭  |

エ　主な農業機械施設

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 名　称（規模等） | 数量 | 名　称（規模等） | 数量 | 名　称（規模等） | 数量 |
| 農舎(木造180㎡） | 1棟 | トラクター（４０、25ps） | 2台 | 下葉取り機 | 1台 |
| 畜舎(木造100㎡) | 1棟 | 田植機（3条） | 1台 | 動力噴霧器 | 1台 |
| 冷蔵庫(20㎡) | 1台 | コンバイン（4条） | 1台 | 　 | 　 |
| 軽トラック | １台 | 選花機 | 1台（共同） | 　 | 　 |

 (７)　経営改善に役立った補助・融資事業

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　事　業　名　等 | 年　　度 | 導入した施設の名称及び規模等 |
| 農業改良資金 | 昭和57年 | 鉄骨ハウス（1，000㎡） |
| 新農業構造改善事業 | 昭和63年 | 花き集出荷施設（JA）（600㎡、保冷庫100㎡） |
| 花き生産円滑化事業（県単） | 平成7年 | 下葉取り機（3戸共同） |

(８)　農業経営の成果

①家族経営(法人以外) 　　 （単位：万円） ②法人経営 　 　 （単位：万円）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 部門名 | 農業粗収益 | 経営費 | 所 得 |  | 部門名 | 農業粗収益 | 経営費 | 利 益 |
| 水 稲作業受託肉 牛 |  350 100 120 |  250 40 80 |  100 60 40 | 鉢物花き切花花き |  1,000 2,560 |  800 2,380 | 200180 |
| 計 |  3,560 |  3,180（300） | 380(50) |
| 計 |  540 |  350 |  200 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　注：（　　）内は表彰候補者に帰属する報酬額

(9)　既往の主な褒賞実績･称号等

　　 昭和59年～平成９年 ○○県 指導農業士

 昭和64年～平成７年 ○○町 農業委員会委員

　　　昭和64年～平成９年 ○○農協 理事

　　　平成 ４年～　９年　　　　　○○郡 指導農業士会 会長

　　　平成８年～現在　　　 　 ○○町 農業委員会 会長

 平成９年～13年　　　　　 JA○○ 花き部会長

　　　平成10年 2月 　　 　 ○○県 農林漁業担い手対策推進会議賞受賞

　　　平成12年11月 　　 　 第18回○○コンクール ○○県知事賞受賞

 平成13年～現在 　　 　 ○○県○○振興協議会 会長

 平成15年10月 ○○県花き功労者表彰

 平成17年10月 第9回○○農業賞金賞（個人の部）受賞

(10)　表彰推薦事由(その１：表彰農家の農事改良等の実績)

|  |
| --- |
| 要約：夏咲きの○○など特色ある品種や開花調整技術の導入により産地の確立に貢献。△△等と組み合わせた周年出荷体系を確立。規模拡大に合わせ、雇用型経営に移行し、全国有数の○○大規模栽培経営を実現した。 |

**①　昭和38 年～56年（みかん経営の拡大）**

・　昭和38年に高校卒業後、みかん2haの専業経営に就農し、その後構造改善事業で1haの規模拡大を図った。当初は副業的に他産業に従事したが30才になる前に農業専業となった。

・　構造改善事業では地区の役員となり、事業の円滑な推進に努めた。

**②**　**昭和57年～平成３年（施設野菜外食用ミニトマト栽培への転換）**

・　みかんの価格下落をうけ、10aのハウスを建設し外食産業向けミニトマト契約栽培を開始した。県内初となる〇〇技術の導入ときめ細かい栽培管理により高品質・安定生産を実現した。また促成と半促成を組み合わせた作型の導入により、労力分散と作期拡大を可能とした。

・　昭和62年、平成3年と堅実に規模拡大を図り30aの経営となった。この規模拡大に合わせ、雇用型経営へと移行し周年雇用を行うようになった。

**③**　**平成４年～８年（○○栽培の開始）**

・　バブル経済の終息に伴う価格下落と連作障害による収量低迷、平成3年の台風による被害をきっかけに、冬期加温温度が低く低コストで栽培可能な○○栽培へと転換した。当初は20aの規模で開始し、仲間とともに栽培技術について先進地である○○県や県内の生産者の元へ足繁く通い技術を習得した。

・　平成5年より○○の裏作に△△と◇◇を取り入れ、周年出荷体系を確立した。

・　同年より作付け前に土壌診断を実施し、環境に負荷をかけない適切な肥培管理に努めており、現在も全てのハウスで毎年行っている。

・　平成8年からは、品種の幅を広げるために○○の開花調整の研究に着手し試行錯誤の末、確立させた技術は産地へ普及させた。

**④　平成９年～現在（特色ある品種選定と着実な規模拡大）**

・　平成9年、12年、13年、16年、18年に無借金で規模を拡大し、平成22年には平均規模が20a前後と言われる○○栽培において全国有数規模の70a経営を実現した。

・　平成9年から産地の特色を出すために、難しいとされる夏咲き品種の栽培を開始。これが好評となり、一気に産地として認知された。同年から出荷仕向け先を○○地方内から東京出荷へと移行し価格安定に努めている。

・　平成20年から全ハウスに自動換気扇を導入し、高品質化に取り組んでいる。

・　現在は○○63ａ、△△20a、◇◇10aを経営し、○○120万本を出荷している。

作物名　　　　　作型　　面積　１　２　３　４　５　６　７　８　９　１０　１１　１２

○○○　　　　　普通　　63a　　　　　　　□　　　　　　　○ 　◎　　　　　□

△△△　　　　　　　　　20a　　　　　　○　　◎　　　□□

◇◇◇　　　　　春播　　10a　　　　　　　○○　　□□

**(11)　表彰推薦事由(その２：表彰農家の地域農業発展等への貢献)**

|  |
| --- |
| 要約：JA花き部会○○分会長等を務め、市場の要望に対応した技術導入試験等、産地づくりに貢献。担い手の育成のため、研修の受け入れや、就農地の斡旋、種苗の確保等を支援。農業委員会長として農地の流動化に努めるとともに、地域に先駆けて、家族経営協定を締結し、男女共同参画に貢献。 |

**①　市場ニーズに応える産地作り（求められる品種構成と出荷規格の構築）**

・　平成4年から地域でいち早く○○栽培に取り組み、技術の確立に努めた。当初4戸が40aで開始した○○栽培は、現在9戸220aの産地となった。

・　○○地方内出荷の限界を察知し、東京進出の目玉となる夏咲き品種の栽培にあたっても、率先して電照条件、種子冷蔵等について試験を繰り返し部会へ技術の普及を図った。

・　平成13年にはJA花き部会○○分会長として自家採種技術の向上に努めた。また、品種カタログの配布を行うなど販売力の強化を行い、平成21年にもJA花き部会○○分会長を務め、産地で選抜育種された品種の認知向上のため産地紹介DVDを作成し好評を得る。

・　生産者同士の連携により農協を動かし、県内産地が協力して市場からの注文に答える体制づくりに尽力した。

**②　担い手の育成に貢献（長期研修の受け入れによる非農家出身者の就農支援）**

・　産地の高齢化に危機感を覚え、里親として登録、平成10年から研修生の受け入れを開始した。短期に加え2年程度の長期研修も幅広く受け入れ、技術指導だけでなく就農地の斡旋、就農後も種苗の確保支援など独り立ちできるまで手厚く指導している。

・　その成果として、1組の夫婦、2名の青年が就農しており、地域・産地の活性化が図られた。

・　現在も1名の研修生を受け入れ中であり、研修受け入れ人数は多くないものの、確実に担い手を育成している。

**③　地域農業の振興と農村活性化に貢献**

・　昭和46年～48年に、水田圃場整備、広域排水整備等園芸振興生産者代表及び土地改良区理事として事業の啓発･合意形成を図り、事業実施を推進した。

・　平成元～９年の間、農協理事として１町１農協への合併に貢献するとともに，水田転作の推進による地域農業の複合化、園芸部門の営農指導体制の強化，青果物集出荷施設の整備を推進した。

・　昭和61年以降現在まで、農業委員及び農業委員会長として農地の流動化に努めるとともに、転作の団地化のための合意形成に尽力し、遊休地の解消に大きく貢献した。

・　平成11年にゆとりと計画性のある農業を営むため，地域に先駆けて休日，労働時間，報酬等の就業条件や作業分担，経営計画等について家族経営協定を結び，地域での模範となっている。

・　平成７年以降簿記記帳や青色申告を地域でいち早く取り入れ、平成６年以降○○村青色申告会を設立し、地域全体の取り組みへと発展させた。